教育プログラム・コースの概要

大学名等	慶應義塾大学大学院薬学研究科　薬学専攻
教育プログラム・コース名	腫瘍薬学コース（正規課程）
対象職種・分野	慶應義塾大学大学院薬学研究科　薬学専攻博士課程大学院生
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	がんの治療法は進歩が著しいが、難治がんや進行がんは、未だに治癒困難である。本コースでは、基礎および臨床腫瘍学の最先端の情報を学び、新たながんの治療法を提案できる研究者・薬剤師の育成を目指す。すなわち、ゲノム医療に代表されるバイオインフォーマティックス、AIを駆使したビッグデータ活用、新規免疫療法等を学ぶ。成果を臨床の現場に還元できる研究マインドの高いがん専門薬剤師、あるいは臨床の現場で生じた疑問を研究を通じて解決できる臨床マインドの高いがん研究者を育成する。
修了要件・履修方法	・講義科目、演習、課題研究を合わせて30単位以上を修得すること。 ・がん領域の課題研究を行ってその結果を博士論文としてまとめたうえで、本大学院が行う博士論文審査に合格すること。 ・必修科目「がん臨床薬学特論Ⅰ」「がん臨床薬学特論Ⅱ」を履修し、レポート評価に合格すること。 ・選択科目として「がん臨床薬学特論Ⅲ・Ⅳ」「がん臨床薬学特別研修」への参加も推奨する。後者は、約3ヶ月の国内外の先進的がん医療施設での実務研修を通じて医療現場の問題を認識し、その克服法を学ぶ。ルーブリックを用いた到達度評価を行う。
履修科目等	演習（6単位）、課題研究（16単位）、臨床研究導入講義・実習含む（1単位）、大学院特別講義（3単位）の必修科目に下記の科目を追加する。 ＜必修科目＞ ・がん臨床薬学特論Ⅰ（1単位）演習を含む講義 ・がん臨床薬学特論Ⅱ（0.5単位）講義、症例検討およびスモールグループディスカッション ＜選択科目＞ ・がん臨床薬学特論Ⅲ・Ⅳ（各0.5単位）本拠点に参加している各大学およびその研究科が設置する講義・プログラム ・がん臨床薬学特別研修（2単位）　先進的がん医療施設として国立がん研究センター中央・東病院、がん研究会有明病院、慶應義塾大学病院の他、薬学部海外協定校関連病院での研修も含まれることが当コースの特徴である。
がんに関する専門資格との連携	がん専門薬剤師（日本医療薬学会）、外来がん治療認定薬剤師（日本臨床腫瘍薬学会）の研修単位を発行する。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がん医療の進歩は著しく、データベース解析や新規免疫療法のさらに先を行く研究テーマを扱っていく。その一方で、がん臨床薬学特論やがん臨床薬学特別研修では、症例検討や臨床実習を通してがん医療現場の問題解決の実際を取り扱っていく。さらに、海外の病院での臨床実習も含まれることは特筆に値する。
指導体制	当研究科40名の大学院指導教員が、上記特論や各講座内での研究指導に当たり、第4期がんプロテーマ③「新たな治療法を開発できる人材の養成」に関わる。講義の一部は医学研究科や他大学の講師にも協力を依頼する。がん臨床薬学特別研修は、研修先病院の指導薬剤師が担当し、研究テーマ①「がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成」に関わる。
修了者の進路・キャリアパス	修了生は、大学病院やがん専門病院、さらに地域基幹病院に就職して、がん専門薬剤師や外来がん治療認定薬剤師の資格獲得を目指す。一方、企業の研究機関で医薬品開発に関わる研究職や省庁などで公務員として医療行政において貢献する修了生も期待する。
受入開始時期	令和6年4月

受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5

受入目標人数設定の考え方・根拠	博士課程入学者は、この数年10名程度で、薬剤師として就職する者は2名程度である。毎年コンスタントな入学者を受け入れたい、ということから毎年1名とした。

履修者数 ※当該年度に「新たに」入学した人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	0					0